

令和6年度第2回大磯町総合計画審議会結果概要

○日時 令和6年11月13日（水）午後4時00分から午後6時30分まで

○場所 大磯町役場本庁舎4階第2委員会室、Web会議

○出席者（会長）成田委員（学識経験者）

（委員）鈴木祥弘委員（学識経験者）※オンライン参加

濱谷委員（教育長職務代理）※オンライン参加

戸塚委員（農業委員会会長）、小泉委員（区長連絡協議会会長）、

鈴木豊男子委員（社会福祉協議会会長）、大塚委員（観光協会副会長）、

立石委員（PTA連絡協議会）、岩田委員（中郡医師会理事）、

小清水委員（中南信用金庫常勤理事）、

小澤委員（㈱タウンニュース社大磯・二宮・中井編集室編集長）、

池田委員（公募町民）

○事務局 政策課長、政策課担当職員

○傍聴者 1名

○議題（1）大磯町第五次総合計画前期基本計画実施計画進行管理書（令和5年度）について

（2）大磯町第五次総合計画後期基本計画策定の進捗について

（3）令和5年度総合戦略事業の評価検証について

○会議記録

1. あいさつ

・会長あいさつ

本日の審議会の案件は3点である。1点目は、「大磯町第五次総合計画前期基本計画進行管理書について」ということで、令和5年度の総合計画認定事業等の進行状況について、事務局より報告がある。2点目は、「大磯町第五次総合計画後期基本計画策定の進捗について」ということで、町民アンケート調査結果等について、事務局より報告がある。3点目は、「令和5年度総合戦略事業の評価検証について」ということで、令和5年度における総合戦略事業の事業実施担当課からの評価がまとまったとのことで、評価の客観性を高めるための外部組織として、当審議会にて評価を行う。

2. 報告

（1）大磯町第五次総合計画前期基本計画実施計画進行管理書（令和5年度）について

資料1に基づき大磯町第五次総合計画前期基本計画実施計画進行管理書（令和5

年度) について事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答が行われた。

- ◎ 資料の中で柱Ⅲや柱Ⅳについて他と比べて達成状況が悪い傾向がみられるが、今後、具体的に取り組もうと考えているものはあるか。(会長)
- 全体で 33.9%という達成率は、まだまだ努力が必要だと思われるが、担当課としてもこの評価を受けて、事業の改善や予算の確保を進めている。事業の進捗等については担当課と調整をした中で進めていきたいと考えている。(事務局)
- ◎ 4 ページの「第 2 期けんこうプラン大磯策定事業」は会議を開催すると A 評価ということになっており、達成率は高くなるが実態は反映されない。実施事業は評価しやすいが、医療や福祉に関しては一つの資料だけでは評価しにくく、今後どう評価していくか疑問が残る。達成率だけでは事業の実態が見えないと感じた。(委員)

(2) 大磯町第五次総合計画後期基本計画策定の進捗について

資料 2 に基づき大磯町第五次総合計画後期基本計画策定の進捗について事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答が行われた。

- ◎ アンケートの中で分布図が出たと思うが、アンケート結果と今まで町が取り組んできた施策に対して町民の満足度は一致していると考えるか。(委員)
- 次期計画では、現在位置付けられている重点プロジェクトと同じ分野の重点事業を位置付ける予定である。しかし、子ども・子育て支援や産業の分野は現在の重点プロジェクトにも該当しているが、満足度が低い状況となっているため、位置付ける事業は考えていかなければいけない。(事務局)
- ◎ 年齢、性別でアンケート結果に差はあるのか。また、保険について満足度が低い理由はあるか。(委員)
- まず性別について、一般町民アンケートは全体の 470 件のうち、男性が 194 件、女性が 251 件、無回答が 25 件である。転入者アンケートは全体 198 件のうち、男性が 86 件、女性が 95 件、その他が 2 件、無回答が 15 件である。次に年齢別については、一般町民の 10 代が 8 件、20 代が 36 件、30 代が 78 件、40 代が 95 件、50 代が 91 件、60 代が 113 件、70 歳～74 歳が 17 件、75 歳以上が 27 件、無回答が 5 件である。転入者アンケートは 10 代が 0 件、20 代が 12 件、30 代が 32 件、40 代が 43 件、50 代が 35 件、60 代が 36 件、70 歳～74 歳が 16 件、75 歳以上が 14 件、無回答が 10 件である。

また、報告書の作成を進めており、11 月中には完成すると業者から報告を受けている。アンケート結果については、町ホームページに掲載するタイミングで委

員にも連絡する。

次に保険の満足度が低い理由については、単純に個人の感覚で重要度、満足度で決めているため、具体的には何が悪いかまでは精査できていない。今後担当課にヒアリングを予定しているため、アンケート結果を伝え、改善事項を確認し、他市町村とも比較をしながら進めていきたいと考えている。(事務局)

◎ 例えば、子育てに関わっている年齢層がどこに問題意識があるかなど、年齢層や性別ごとの分布をおおまかでもいいので、報告書の中で提示をしてほしい。(会長)

◎ 「幸福度」の定義はあるか。(委員)

○ 定義はない。あくまで今の個人の状態を10段階評価で示してもらっている。(事務局)

◎ アンケート用紙の質問項目等を提示してもらえると満足度・重要度の評価の理由などが見えてくるため、次回以降は提示をお願いしたい。

また、グラフの分布図を見ると、転入者の部分で重要事項だが満足度が低い分野に幼児教育・保育、子ども・子育て支援、学校教育が入っている。これでは大磯町に移住を希望している方の不安要素になってしまう項目だと感じる。アンケートをして終わりではなく、結果を精査し次期計画に生かしてほしい。(会長)

◎ このアンケートは業者による委託という認識で良いか。(委員)

○ 策定業務として委託している。(事務局)

◎ アンケートは回収率の高さを目指さなくてはいけませんが、今回のアンケートは、3～4割程度であり高くない。最近は回収率を高めるために郵送ではなく、電話やインターネットで行われることが多い。今後、回収率を上げるためにインターネットでの回答方法や参加賞などをつける考えはあるのか。

また、委託業者でアンケート結果の精査をしたうえで委員に提示してもらえるのか。(委員)

○ 今回のアンケート方法は、紙の郵送のみで対応している。今後はWebと紙を併用して取り組む形も検討していきたい。

また、委託業者に単純推計ではなく、クロス集計という形で分析をしてもらっているため、性別や家族構成による集計等は報告書の中で提示できると考える。(事務局)

◎ 単なるクロス集計ではなく、ほかの分析方法の活用予定はあるのか。(会長)

○ 委託業者がクロス集計を行うため、今回のアンケートでは難しいが、今後に向けてより詳しい分析を行えるよう努力はしていきたい。(事務局)

◎ これだけの項目数を聞いているのにクロス集計をしてしまうと、逆にわかりにくくなってしまう可能性があるため、少しやり方に雑さを感じてしまう。(会長)

- ◎ 国のデジタル田園都市国家構想の政策的に風向きが変わってきており、計画を実行するのは再来年度のため、ギリギリまで状況を見定めていかなければならない。これまでの大磯町の目指してきたものを踏まえながらやっていく方が良いと思うが、町の見通しとしてはどうか。(会長)
- 今後の国の政策の方向性については、現在市町村にも通知は来ていないため、どうなるかは分からない。デジタル田園都市国家構想は、日本全国の自治体を対象にして進めているものであるため、全てが大磯町に該当するわけではないと考えている。国が進めるべき方向性に沿っているものから大磯町に適した部分を抽出して進めていければと考えている。(事務局)
- ◎ 最近発表された統計では出生数が70万人を割る推計となっており、安心して、将来に希望をもって楽しく暮らしていける町を作った結果として人口が増えていくのであれば良いが、単純に人口増を考えるのはあまり意味がないと感じるため、検討していただきたい。(会長)
- 町単位で出生数を増やすのは難しいため、町では社会増に注目し、転入者を増やす取組みを行っている。また、政策を複合的に重ね合わせて町の魅力を向上していくために一丸となって取り組んでおり、一つひとつの取組みが人口減少に歯止めをかけるという意識をもって来年度予算にも組み込んでいる。今後の状況にもアンテナを張りながら、今後取り組んでいく。(事務局)

3. 議題

(1) 令和5年度総合戦略事業の評価検証について

資料3-1、資料3-2及び資料3-3に基づき令和5年度総合戦略事業の評価検証について事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答が行われた。

重点プロジェクト1

- ◎ ②「地域経済循環形成事業」の「スマート産業への転換への促進」や③「働く世代の移住促進事業」の「多様な働き方の支援」などは主な取組みを見る限り、何もやっていないように見える。実施項目に対して何もアクションを起こしていないのは良くないと感じる。(委員)
- ◎ 昨年の審議会では、KPIのあり方や手法に関して、かなり時間を超過して議論したと思う。この評価シートに関しては、次期総合計画の時にKPIを見直そうとしているため、昨年から継続しているものであり、ある意味適切でないままであるという認識で良いか。(委員)
- おっしゃる通りである。(事務局)
- ◎ 資料3-3①で森林所有者と利用希望者のマッチングに向けた意向調査でマ

マッチングした件数、ふるさと納税の利用が増えた件数、そして移住相談窓口で実際に移住につながった方は何人いるのか。(委員)

- 森林所有者と利用希望者のマッチングに向けた意向調査ではマッチングの組みをしたわけではなく、マッチングに向けた意向調査を森林所有者に確認したという状況である。実際にマッチング等に取り組んでいるかどうかは担当課の方に確認する。(事務局)

◎ 利用希望者がいるかどうかは分からないのか。(委員)

- 利用希望者を募るマッチングに向けた前段階での準備でアンケートを実施したのみである。(事務局)

◎ アンケートは何件行い、回答率はどれくらいなのか。(会長)

- 現時点では担当課に確認できていない。意向調査した後で実際にマッチングがあったかどうかも含めて担当課に確認し、委員の皆様にフィードバックをする。

また、移住相談窓口で実際に移住につながった人は、今年の11月初めに移住を本格的に希望している方を政策課で抽出して22名の方に移住の進捗状況等をメールで確認した。その中で確認できたのは2件である。(事務局)

◎ 22件というのは今まで相談があった人の中から抽出したのか。(委員)

- 令和3年度から現在までの相談件数を含めた、58件のうち本格的に移住を希望している方が22件である。移住相談の中身は人によって温度感が異なるため、相談内容も幅広くなってくるが、その中でより移住を検討している方に対して追跡調査を行った。(事務局)

◎ アンケートの中身はどのようなことを聞いたのか。(会長)

- 現在移住をされたのか、移住先は大磯町か、他市町村か、また、移住をまだしていないと回答した方に対してはなぜ移住をまだしていないのか、今後大磯町が移住定住施策で取り組むべきものがあれば教えてほしいといった項目で2、3分で終わるようなアンケート内容で照会した。その中で回答は3件あり、そのうち2件は大磯町に移住をしていた。(事務局)

◎ 相談して移住を考えている方が大磯町にどのようなことを求めているのか、今後大磯町として改善していく手だてを探るような事業としてやっているのか。(会長)

- 今回アンケートを行った趣旨としては、そもそも移住につながった方の確認もあるが、移住相談をして移住につながらなかった方たちに対して、何が原因で大磯町が選ばれなかったのか、情報収集も兼ねて追跡調査をしている。今後の移住に向けた施策を打ち出すためにも実施をしたばかりではあるため、今後の回答結果等については、政策課で分析をして審議会で委員の皆様に報告できればと思う。(事務局)

- ◎ スマート産業への転換の促進、多様な働き方の支援について簡単に説明してほしい。(会長)
- スマート産業への転換は事業担当課にも確認を取ったが、実施できていない。また、多様な働き方の支援に関しても同様の理由で斜線が入っている。(事務局)
- ◎ 戦略シートのD oの部分でも件数はゼロになっているが、多様な働き方の支援は行っていないのか。(会長)
- 担当課として検討や研究はしているとは思いますが、具体的な成果としてはないため、委員の皆様からすればやっていないという形の評価を受けざるを得ない。
また、ふるさと納税については、令和3年度時点では大体500万円ぐらいの受入額であったが、令和6年度の見込み額では大体4,000万円ぐらいに上がっている。ふるさと納税への意識と返礼に対しての興味を持ってもらったのではないかなと思う。(事務局)
- ◎ 主な取組みだけでなく、目標値に達していない部分の説明やマイナス面を考えなければいけない。旧吉田茂邸の年間観覧者数や多様な働き方への取組み件数など、なぜ増えてないのかを考える必要があると思う。(委員)
- ◎ 数値目標を見直す必要があるという話を前回の審議会でも発言したが、数値目標自体を変えることはできないため、おそらく前回と同じ答えしか出せない。(委員)
- ◎ K P I と補助的評価指標の関係性を明らかにしてほしい。また、②「地域循環形成事業」では主な取組みが基本的にイベントを開催したことしか見えないため、政策的にそれでいいのか疑問を感じる。繁閑差率についても、それぞれの実績、どのようなイベントだったかについても検証すべきである。(委員)
- ◎ 資料3-3のように主な取組みを書いてくれるとK P I ではないが、参考になると思う。そのため、例えば、森林所有者とのマッチングに寄与したという微妙な表現ではどうなったか分からない。数字で出せるところは良い部分も悪い部分もこの審議会に提示してほしい。具体的に実績がどうだったのかを知り、来年度どうするかというのを委員は評価しないといけない。また、アンケートも統計的处理を行い、次につなげてほしい。(委員)
- ◎ 働く世代の移住促進事業については実施項目だけでは評価するときには本質がずれているように思える。(委員)
- ◎ 私自身が移住プロジェクトには関わりがあるため、非常に苦しいところではあるが、この評価シートには書かれていないが、やっていることがかなりある。審議会でも評価する数字とは別で実際にやっていることを審議会でも提示し、委員に理解をもらえば良いと思う。(委員)
- ◎ K P I はそれぞれの重点事業が目指している目標に届いているかを評価する

ための指標である。関連性が示されていれば評価しやすいが、順調に推移しているという評価には少し違和感がある。また、9つの実施項目のうち2つが実施していない。よって、重点プロジェクト1について、それぞれの事業で達成している数値を提示するという条件付きで審議会評価は「Ⅱ」にするということによりたいか。(会長)

[一同意義なし]

◎ それでは、本件については、審議会評価を「Ⅱ」とすることとする。(会長)

重点プロジェクト2

◎ 先ほどの移住に関連する部分もあるが、小学校給食無償化だけでなく、中学校のお弁当料金の補助もやっている。保護者の立場から見ると、大磯町には中学校給食がないから他市町村に住もうと考えてしまう家庭も一定数いると考えられるため、このような取組みをしているとPRした方がたい。

また、ファミリーサポートセンター事業については利用者数とサポートしている側の方が何人いるのか、利用したいと考えている方はどれくらいいるのかという数字があると分かりやすい。(委員)

○ 中学校昼食支援事業として令和5年11月から販売する形でお弁当提供をしている。中学校給食を中断していることから、そのような支援を行っている。生活の中で直接関係しないと伝わらない部分ではあるため、伝え方については注意していきたい。中学校昼食の補助の記載については担当課に確認しながら、継続事業として位置付けて記載している部分もあるため、追記等をしながらホームページに掲載する。

また、ファミリーサポートセンター事業では事前に面談をして、一度登録すると利用者とサポート側がペアになって進めていくことになっている。令和5年度の実績では援助会員は17名、依頼会員は153名、年間利用者数は502件、時間数でいうと1,527時間である。件数等についても資料3-3に来年度以降は委員の皆様にも見える形で対応していきたい。(事務局)

◎ 移住セミナーで先輩移住者として参加した際に、ファミリー層の方からやはり給食のことや子育て事業についての質問が多く出ていた。この部分に関しては注目度があり、1つ目の重点プロジェクトと関係性が高いために、関連付けて評価した方がたい。中学校昼食支援やファミリーサポートセンター事業などの取組みをうまく表現してもらえればと思う。(委員)

◎ 学校運営協議会の中でどのようなことを議題として提示し、どう評価されたのか結果が分からないため、非常に形式的に見えてしまう。詳細があれば教えてほしい。(会長)

- 地域学校協働運営事業については、地域の方や関係者に協議会の中で学校の教育方針や経営方針の決定について意見をもらうものとなっている。現状では各学校に一つの協議会が設置されている。協議会の中で学校の課題についてテーマとして挙げており、各学校によっても変わってくるが保護者と学校活動との関わり方や今後行っていく学校行事に対しての意見をもらっている。(事務局)
- ◎ ここで出てくる「子ども」というのはいわゆる「普通の子」というのが対象になっていると思う。「普通」に合わせようとするのではなく、多様化している子どもたちの能力を分析しながら、どういうものが必要かということまで含めた重点事業があると他市町村とも差別化できるのではないか。(委員)
- 今の委員の話は次期計画への内容かと思われる。大磯町でも教育研究所があり、学校になじめない子に対して自分に合ったペースで教育を提供する形で研究所職員が対応している。不登校の子どもは全国的に見ても増えており、文部科学省でも行政から手を差し伸べる、財政支援などの検討も始まっていると報道があった。担当課には意見があったことを伝えて、町としてできるところ、次期計画への事業だてをさせていただければと思う。(事務局)
- ◎ 今までの議論を含め、重点事業の取組みは行っているが、十分な成果が得られていないことから、重点プロジェクト2について、審議会評価は「Ⅲ」にすることによってよろしいか。(会長)

[一同意義なし]

- ◎ それでは、本件については、審議会評価を「Ⅲ」とすることとする。(会長)

重点プロジェクト3

- ◎ ①「地域防災力向上事業」の主な取組みで感染症対策マニュアル作成とあるが、令和5年度にできたものなのか、それとも前からあるものなのか。(委員)
- 昨年度から記載している内容になるため、以前から作成しているものになる。(事務局)
- ◎ コロナ感染症が流行したのは数年前なので、マニュアルの作成が今なのかと疑問に思った。(委員)
- 年度毎に更新をしているという認識を持ってもらえればと思う。(事務局)
- ◎ 感染症対策で備品の購入とあるが何を購入したのか。(委員)
- 令和5年度に備品の購入はしていない。(事務局)
- ◎ 感染症対策とは別ということか。(委員)
- 別である。令和5年度だけの取組みだけでなく継続しているものも記載している。主な取組みの備品購入の欄については、記載の内容を削除するのか、継続で記載するのか担当課に確認する。(事務局)

◎ 資料に書いてある内容が抽象的であるため、次回以降は具体的に書いてもらえば、委員の皆様も理解できると考える。(委員)

◎ 細かい事業については担当課が行っているため、事業の詳細な内容については、政策課も答えられないと思う。そのような状態で評価をしているため、ある程度の内容で評価を決めていかないといけない。評価シートの項目は増やさないと評価しにくい。

また、文章で書いただけでは具体的な話が分からないため、次回以降検討してほしい。(委員)

◎ ②「健康長寿推進事業」のK P I「平均自立期間」は延伸が目標となっているが、達成はしていない。また、介護予防教室が平均自立期間の延伸につながっているのか疑問ではある。これまでも委員が言っているように具体的に記載をしてもらいたい。(会長)

◎ 今までの議論を含め、重点事業は順調に進捗はしているが、一部の事業を改善する必要があることから、重点プロジェクト3について、審議会評価は「Ⅱ」にするということによろしいか。(会長)

[一同意義なし]

◎ それでは、本件については、審議会評価を「Ⅱ」とすることとする。(会長)

4. その他

◎ 重点プロジェクトの内容を分かりやすく町民に示してほしい。ホームページを作成する際には重点プロジェクト1～3をリーフレットの形で編集して示してもらえるとありがたい。(委員)

- ・ 事務局から次回の総合計画審議会の日程及び今後の委員委嘱について事務連絡を行った。

以上